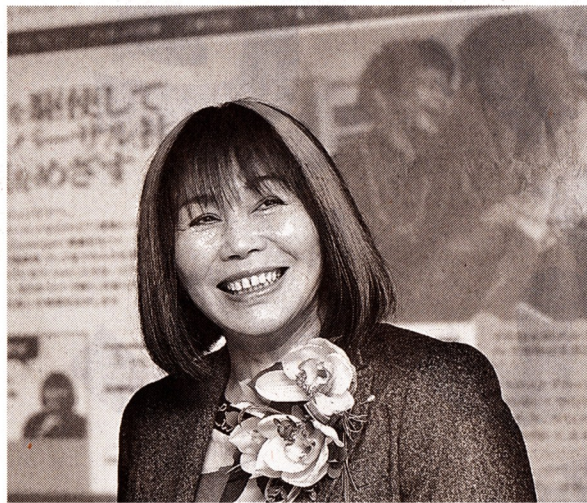


「チャレンジド」支援で米国が表彰

たけ なか
竹中 ナミさん(60)



ひと

と心臓だけのおばちゃん。これは私たちの輪が受けた賞やと思うてます」と語った。

愛称ナミねえ。姉御肌のパナーと、セミナー修了者への就労支援が活動の2本柱だ。

神戸を拠点にボランティア仲間と「プロップ・ステーション」を発足させて18年。障

害のある人を「チャレンジド」(神から挑戦の機会を与えられた人)と呼ぶ米国の考え方に共感し、「チャレンジドが

米國務長官による顕彰事業の一環として今年5日、東京の米国大使館から「勇氣ある日本女性賞」を授与された。

仕事を得て納税者になれる日本」を目指してきた。

障害者向けのパソコンセ

ミナーと、セミナー修了者への就労支援が活動の2本柱だ。

障害を補う手段としてパソコンを活用し、各人の潜在能力を引き出そうとするプロップ

の手法は広く注目を集めた。

「障害者年金を支給するから

あんなら働かんでもええよ、というような日本の福祉行政

はおかしい」と訴える。

自称「不良時代」の16歳で

結婚。24歳で重度の脳障害を

持つ長女麻紀さんを授かった

ことが人生を変えた。

今や米国防総省の障害者支

援チームと連携したり、政府

の審議会を手伝わされたりと

大忙しだ。05年郵政選挙では

小泉純一郎元首相の秘書に出

馬要請されたことも。「私の

仕事はプロップなんよ」と即

座に断った。

神戸市出身。社会福祉法人プロップ・ステーション理

事長。昨年10月、東京・赤坂に東京事務所を開設した。

文・古賀 攻
写真・平田明浩